

## ● 支所機能及び各庁舎の跡地利用について

### (1) 基本的な考え方

那須塩原市では、少子高齢化、人口減少問題、そして東京圏への人口流出に歯止めをかけること、これらを市の最重要課題として位置づけ、新市建設計画に掲げているJR西那須野駅周辺、JR那須塩原駅周辺、JR黒磯駅周辺の3つの市街地拠点を核とし、那須塩原市と県北の拠点となるコンパクトシティを推進することにより、那須塩原市定住促進計画に掲げる「人々から選ばれるまちづくり」、「人口の減らないまちづくり」を実現するものとしております。

また、市のまちづくりの指針となる第1次那須塩原市総合計画那須塩原計画（以下「総合計画」という。）においては、まちづくりの基本理念に「安全に安心して暮らせるまちづくり」、「市民との協働によるまちづくり」、「個性が輝くまちづくり」、「効率的・効果的な行財政運営による自立したまちづくり」を掲げております。

基本計画の策定に当たっては、これらの基本理念を念頭に置き、新庁舎建設に伴う支所機能及び既存庁舎のあり方を検討し、次のとおり、方向性をまとめました。

### (2) 支所機能のあり方

新庁舎建設は、現在分散しているすべての本庁機能を集約し、市民や来庁者の利便性及び効率的な行政運営を維持することを目指すこととしております。新庁舎建設に伴う将来の支所機能の検討に当たっては、現在各支所で行っている住民サービスの向上、現状維持、機能の縮小など様々な考察がされましたが、新庁舎建設の趣旨に鑑み、基本的な方向性を次のとおり定め、詳細な事務分掌については、那須塩原市組織機構改革推進要綱に基づく組織機構改革推進会議において検討を進めてまいります。

- ・ 現在の支所における業務については、窓口業務等のより市民に身近なサービスの提供を継続して行うものとする。
- ・ 産業観光建設部門の業務については、各支所の現状に鑑み、検討を行うものとする。

また、現状、黒磯支所の機能は、本庁機能に集約されておりますが、黒磯駅周辺の高齢化率（65歳以上の人口が占める割合）が顕著であることから、現在の本庁舎がJR那須塩原駅周辺に移転することで、黒磯駅周辺地区住民への行政サービスの低下が懸念されます。そのため、黒磯支所の機能については、黒磯駅周辺再生都市再生整備計画と併せ、次のとおり、検討を進めるものとしします。

- ・ (仮称) 駅前図書館に、住民サービスを提供する窓口(出張所)を設置する
- ・ 高齢者並びに子育て世代を対象としたサービス内容を検討する

### (3) 各庁舎の跡地利用

新庁舎建設は、現在分散しているすべての本庁機能を集約し、市民や来庁者の利便性及び効率的な行政運営を維持することを目指すこととしております。新庁舎建設に伴う各庁舎の跡地利用の検討に当たっては、様々な考察がされましたが、総合計画の基本理念に鑑み、基本的な方向性を次のとおり定め、詳細な利用方法については、市有施設全体の今後の方向性について定めることとなる公共施設等総合管理計画を検討する中で、整理を進めるものとします。

庁舎	本庁舎	西那須野庁舎	塩原庁舎及び箒根出張所
方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老朽化が著しい黒磯消防署を本庁舎跡地に移転する。</li> <li>・ 余剰スペースには、災害備蓄品及び行政文書を保管する書庫を設けることとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の住民サービスは、継続して維持する。なお、住民サービスについては、1階フロアに集約して実施する。</li> <li>・ 2階以上のフロアについては、老朽化が著しい西那須野図書館を移転し、図書館サービスを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連続雨量が基準値を超えた場合、一般国道400号の一部が通行止めになることや塩原地区については、市内においても災害が比較的多い地域であることの現状を鑑み、有事の対応を含め、現状を維持することとする。</li> </ul>